



■第1回：みんなで考えよう！まちなかの「みらい」

日時：令和6年9月28日
場所：玉名市民会館会議棟
参加者数：48人

WS当日の様子は「玉名市まちなか未来プロジェクトの」noteでも配信しています。ぜひフォローしてください！



■当日のプログラムと概要

市民拡大ワークショップでは、市民の方々と一緒に、まちなかの6つのエリアの個性を活かしたまちの使い方や、実現したいことを語り合いました。

●開会

挨拶（玉名市長 ※代読）

●ミニ講演（ビデオメッセージ）

熊本県立大学環境共生学部 柴田 祐 教授

「市民と行政が共に創るまちなかの未来」



住民主体のまちづくりは本来、自分の家の前の道路を清掃する習わしのように江戸時代から息づいていましたが、戦後、公共のことは行政に任せるという文化が定着していったといいます。そのうえで、昨今の社会背景をふまえ「昔のあたりまえを取り戻す」必要がでてきている、と語る柴田教授

●話題提供

日本工営都市空間(株)

「データから読み解くまちなかの過去・現在・未来」

50年前と現在のまちなかの地図を比較や、人口推移、まちなかの来訪者数などのデータが「地域の現状や特徴を知る一つの切り口」として紹介されました。



●まちなかランドデザインたたき台のご説明

●グループワーク

「やりたいことが実現した理想の玉名のまちなかでの過ごし方」



まちなか未来デザイン協議会、まちなか魅力向上委員会、まちなか出前ワークショップ参加者、高校・大学、地域団体、市職員など多様な参加者がみな同じ目線で語り合いました。

グループ発表

閉会

■各グループの発表内容「やりたいことが実現した理想の玉名のまちなかでの過ごし方」

理想のまちなかでの過ごし方について、市内の6エリア(7グループ)に分かれてワークショップを行いました。参加者が理想とするもうひとつの玉名市があったとして、このエリアでどんな風に過ごしたいか、イメージを膨らましながら個人の意見をグループで共有し、エリアの理想の過ごし方をプレゼンシートにまとめました。

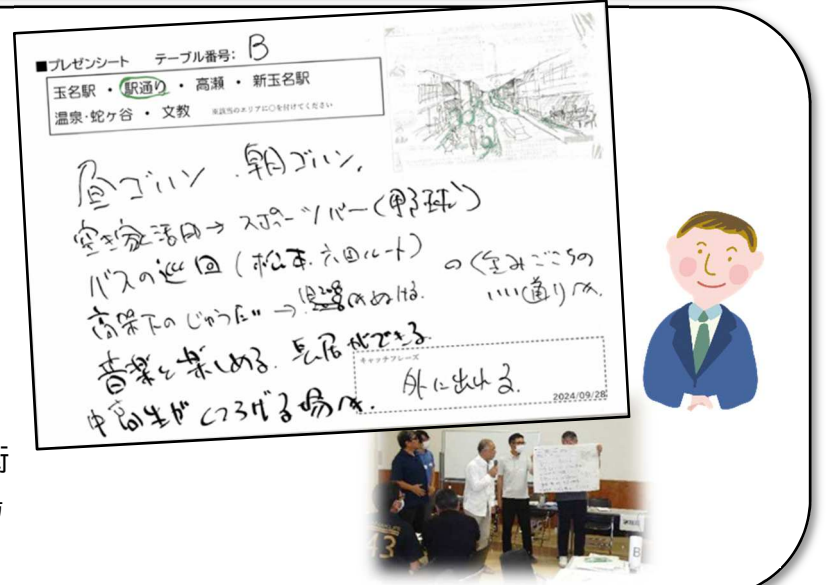
A table: 玉名駅エリア

「駅は人との交差点」をキャッチフレーズとして、駅を拠点としたまち歩きや、多世代が交流する学びのスペースなどがあると、いろいろな趣味を持った人が学びを広げていけるのではないかと提案がありました。また、駅南北のアンダーパスを地下街にして、学生エリアや社会人エリアをそれぞれ作ったり、駅の周辺にオープンカフェやミニ図書館、屋台村を設けることで、通勤通学の時間もより楽しめるような動きが生まれるのではないかと提案がありました。



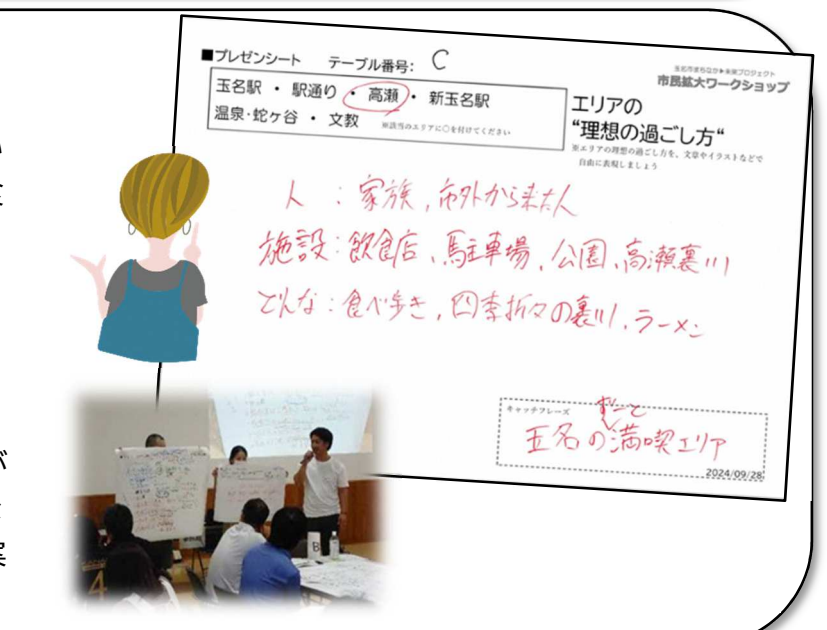
B table: 駅通りエリア

朝食や昼食を取れる場所が現状ないことからそういった場所の整備や、空き家を活用した居場所の整備(スポーツバーなど)が望まれています。交通の面では、松木地区には循環バスがなく、高齢者がタクシーを利用しているため、循環バスの導入があれば良いという提案がありました。また、高架下の渋滞も問題です。その他、音楽を楽しめる場所、中高生がくつろげる場所、祭りなどを通じてまちに人があふれるなど、商店街が商業の場としてだけでなくみんなが居心地の良い場所になることも望まれています。



C table: 高瀬エリア①

高瀬エリアには現在も素晴らしい商店が多く存在しているが、今後の発展に向けて、まず食べ歩きができる飲食店、カフェやキッズルームが併設されたカフェ、玉名市ならではの食材を使った飲食店などがあると良いという意見がありました。また、駐車場が少ないという問題もあり、災害時にも活用できる立体駐車場が必要という声もありました。その他、菊池川でのアクティビティ(SUP)や川の歴史が分かるような水族館、公園などゆっくり過ごせる場所など、子ども達でも楽しめる場所があると良いという提案がありました。



D table: 高瀬エリア②

高瀬の資源を活用するという点で、市民会館跡地の活用など多くの案がありました。一方で使いたい人と使える場所がマッチングされていない現状があるという意見もありました。多世代・多様な人々が集まる街に向けて、例えば外国人が着物を着て歩ける場所などがあると良いという提案がありました。街のソフト面・コンテンツの充実については、多世代・多様な人々が集まる場所として、例えば仮想空間での交流もテーマとして「VR 玉名」などの提案がありました。

E table: 蛇ヶ谷・温泉エリア

蛇ヶ谷・温泉エリアを、市民が日常的に利用しつつ観光客にも魅力的な場所にするため、家族が温泉やスライダーを楽しんでいる合間に利用できる飲食店や空き家を活用したミニ図書館など休憩場所があると良いという提案がありました。また、夜間の街灯や足元の灯りの整備や遊歩道・案内板など歩行環境の整備の提案もありました。そのほか大学生など若者向けに学生割引やPRなどをするという提案がありました。

G table: 新玉名駅エリア

新玉名駅エリアに大型商業施設、スポーツ施設、ビジネスホテルが誘致できると良いという提案がありました。大型商業施設は映画や食事・買い物を楽しめたり、海外からの観光客との語学交流ができる場所、スポーツ施設は大会を開催したり誰でも健康作りの拠点として活用できる場所、宿泊施設はそれらを利用する人々が泊まれる場所となるイメージです。また、6つのエリアを結ぶ循環するバスを導入することで、観光客や住民が利用しやすくなるという提案もありました。

I table: 文教エリア

「安心してみんなが集えるスペース」として、商業施設のような建物ではなく、自分のやりたいことが安心して実現できる場所・スペースが必要であるという提案がありました。病院についても、そのエリアにあれば良いという意見がありました。

■市長からのコメント

各グループの発表に対して、市長から次のようなコメントがありました。

ワークショップで出された案や意見は、丁寧に庁内で整理していきます。また、新玉名駅周辺はまさるな状態であり、今回は具体的な提案も出されましたが、施設の誘致については庁内でも協議しています。追って、みなさんに共有していきます。まちなか未来プロジェクトは、市役所の20の部署や課が集まり、検討を重ねてきました。一方、市民の方々の主体的な参加や協力も必要です。今年度中に各エリアのワークショップも予定していますし、最終的にはまちなかのランドデザインを策定予定です。未来のこともたちに素晴らしい玉名を残していけるよう、ぜひ今後の検討にも参加してほしいと思います。



■参加者の感想

ワークショップ後にご記入頂いたアンケートでは、様々な感想を頂きました。

- エリアごとで、一人一人の思いが良く解り参考になった。
- 言うこと（イメージ）するだけでなく、人の流れを作ることの大切さがわかった。
- 市役所職員・市民が市長の話と一緒に聞けるのは良い機会だと思った。
- 他の人と視点が違って楽しめた。
- 年代を問わず、集う場所を必要としている。
- 今回は大人だけで話したが、中高生などもまじえてまた話し合ってみたい。
- 説明時間を短くしてもっと話したかった。

